

さるを以て一月日之を奉る
くれ竹のうれし節を聞ける千代をよめたる翁の聲

翁の周密にして勤勉の力に富めるは驚くべき程にして、出ては後園に樹木を培養し、入ては清窓の下筆を放たず。淨机の上常に隨筆の稿堆をなせり。翁の隨筆たる茶農漫錄の如き、七十卷に上り、其他の稿本擧げて數ふべからず。今悉く家に藏す。翁に男子十人、女子六人あり。長子紀君は陸軍々醫總監として、大名噴々たりしが、不幸にして明治十五年八月、佛都巴里に病歿し、男若吉氏家を嗣ぐ。第二子林董君は、實は翁の令圖の實弟なり。第六子紳六郎君は、西周氏に養はれ、今は海軍大尉の職を奉じ、現に征清の軍にあり。長女は明治八年世を去られし榎本子爵夫人、二女は赤松男爵夫人にして、一族皆世に著らるる。

北里博士の傳染病研究所

醫學博士北里柴三郎氏、曩に傳染病研究所を東京芝區愛宕町二丁目に設く、其工を廿六年四月に起して廿七年二月に成る、當時同區民中には之が設立に反對を試みたる者あり、一時世上の話柄となりしも、元と其の反對の理由は見識に等しかりしかば幾ばくもなくして熄み、今は輪突たる煉瓦造りの病院は、御成門外に屹立し、規模日に擴められて起死回生の功澤は普ねく世人に被むるに至れり、明治二十八年二月三日、院長北里博士は



北里博士

貴衆兩院議員其他諸氏を其病院に招待して參觀を求む、當時太陽記者もまた臨む、因りて今其の見聞の一二を記し、以て我國醫學の進歩せる一斑を公にせんとす、

從來邦人は傳染病と云へば、虎列拉、腸室扶斯、赤痢、ヂフテリヤ、發疹チフス、痘瘡の六種を指すも、此他北里博士の言によれば、肺結核、肺炎、癩病、梅毒、麻疹、丹毒等も亦皆傳染病の中に入れ、其の病源を微菌の作用に歸し、自在に其微菌を生殺するものなり、而して傳染病研究所は實に此等の病理を實驗する所とす、

氏は曩に青山博士と共に黒死病の病源を香港に發見して、名譽を世界に輝かせり、研究所の第一室は、其の黒死病微菌を研究する所にして、其の病源の爲に死せし人の臟腑を香港より携へ來り、一頭のモルモット（天竺鼠）の體中に注射し幾たびか其病源に感せしめては、之を治療し、今は其病源に感せざるに至りしかば之により該病の死疫法をも發明したりとす、又肺結核の治療法は、氏が獨逸に在るの日、コッホ氏を助けて研究し、今は世界に於ける氏とコッホ氏との專賣特許とも稱すべき長技にして、此の研究所建設以來、氏の治療を受けし者百三十三人、内三人は全癒、六十八人は大半全癒、其二十人は退室し、十二人は死亡し、三十人は現に治療中なりといふ、古來肺病は必死症と信ぜられたるに、幸に氏によりて生を回すを得るに至れるは、人間の幸福も亦進めりといふべし、

其他肺炎菌、癩菌、腸チフス菌、破傷風菌、コレラ、赤痢、梅毒、丹毒、麻疹等の微菌は、一々室を異にして之を研究し、或は製造し、或は移植し、或は顯微鏡を以て六百倍の大に視せ、或は他の動物の體中に移植して之が傳染を試みたる後、更に其の治療を試みるなど、恰かも病毒を以て、農夫が菜蔬を培養し收穫するが如き觀あらしむ、而して此等の微菌移植の爲に、別に動物室を備へ、中には羊、山羊、馬、猿、犬、兎及無數のモルモット、豚鼠等を養へ、之を殺活して以て研究の材料と爲すなり、

惟ふに文明の進歩と共に、病症の種類を増し當初四百四病と稱したるもの、今は千を以て數へ、殊に虎列拉の如き、黒死病の如き、最も近世に出現して、最も猖獗を逞くしたるも、幸に人智は病毒の進歩よりも更に進みて、着々之を制するの道を悟る、吾人今此研究所を觀て非命に斃るゝの畏怖心を減ずること多し、是れ實に氏の賜ものなり、

坪井醫學士の歸朝

醫學士坪井次郎氏去十二月廿九日を以て獨逸より歸朝す方々、獨逸の醫學社會はコッホ及びベツランコフニ於て我北里柴三郎氏に門戸を張り斯道を學ぶ者皆二家の一に就く曩に我北里柴三郎氏はコッホに學びて歸り今氏はベツランコフに學びて歸る而して共に其師の最高弟なり惟ふに氏が今後北里氏と角逐して我醫學社會の面目を一新するや必せり今氏が在獨逸中の成績を聞くに左の如し



坪井醫學士

氏は明治廿三年官命を奉じて獨逸國に赴きミュンヘン大學に入りて當時衛生學の泰斗ベツランコフに親炙して衛生學を修め傍ら有名の生理學者フアンオイト教授に就て生理學の講義を他原始蟲學、化學、國家經濟衛生學に關聯する諸科の講義を聽き大に得る所あり廿三年より昨年に至るまでベツランコフニ於て其の研究室を離れず教授ニシテ之と共に諸般の研究に従事し得たる成績は皆我學界の大賞を得たるものにして彼の虎列刺菌に因由する硝酸鹽中毒なりとの説、血中の治療物質、丹毒の血清療法の如きは全世界の醫士の耳目を聳動し近來の一大發明と稱されたり其他フオイト氏の教室に於て實驗し得たる成績は未だ世に公にせざるものあれども生理學上有益の發見なりと云ふ又廿三年官命を奉じてコッホ氏ツベルクリン療法研究のため柏林に赴き二十四年には我大學を代表して英京倫敦政府に開かれたる第十回萬國醫學會に出席し昨年は大日本私立衛生會の委員としてブダペスト府なる第八回萬國衛生會に出席して其微菌學部の名譽會頭に選ばれ閉會式に獨逸語を以て演説を爲し大に喝采を博したり又官命を奉じてコッホ府に開かれたる第十一回萬國醫學會に臨み又獨逸バーデン丹毒預防法實驗の爲カルスルーへに出張せり

政府の命によりて家猪丹毒預防法實驗の爲カルスルーへに出張せり